

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-23

学校名・団体名	新宿区立落合第六小学校
HPアドレス	http://www.shinjuku.ed.jp/es-ochiai6/index.html
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「落合の染めから学ぶ」 ～江戸・東京・伝統を伝え、守る～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の伝統的な染物を学ぶ活動を通し、染物の種類や文化、染物に携ってきた人々から、文化や、人々の思いや考え、さらには日本人としての見方・ものの考え方に気付き、大切にしようとする心情を育てる。・校内OJTを活性化させるとともに、職層や経験にあった教員の資質能力の向上を目指す。・地域と学校との結びつきを深めるための教材作りの推進	

1. 1学期

5月 「日本の模様について学ぶ」

(内容) 千鳥格子、矢絣、縞、梅、桜などの日本の模様について、地域の高齢者会の方を講師に学習活動を行う。児童が興味をもった模様について、予め教師が分類したカテゴリーごとに、地域の高齢者の方に分かれてもらい、模様の意味やそれに込められた人々の思いや考え、願いを説明してもらう。

(成果や子どもたちへの効果) 地域の高齢者クラブを講師にすることで、地域の人とのかかわりを深めるとともに、模様やデザインにはそれぞれ当時の人々の思いや考え、願いが込められていることに驚いていた。また、地域の高齢者クラブの方々の関係が深まった。

6月前半 「染物の昔を学ぶ」～草木染を行う～

(内容) 校庭のビワ、ヨモギ、サクラ、ササの葉、山桜の実などの木や草を用いて草木染を行い、木綿や絹に媒染を変えて染め、草木のもつ自然な色の美しさや、媒染によって色が変わる変化を楽しむ。

(成果や子どもたちへの効果) 身近な草木染を体験することにより、美しい色を楽しみ、生活を豊かにしようとした、昔の人々の思いや考えを自分なりに感じ取ることができ、染色の面白さを実感できた。

6月後半 「染物の昔を学ぶ」～地域の伝統工芸士を講師に簡単な絞り染めを体験する～

(内容) 新宿区の浸染伝統工芸士 宇佐美隆三氏より、簡単な絞り染め「割り箸による板締め絞り」と「輪ゴムとビー玉を使った絞り」を学び、自分だけの様々な模様づくりを楽しむ。

(成果や子どもたちへの効果) 少しの工夫により自分だけの模様ができることが分かり、模様づくりを楽しむ姿が見られた。また、地域行事を大切にしている宇佐美氏の思いに触れ、落合の町への興味・関心が高まった。

7月前半 「染物の昔を学ぶ」～簡単な型染(ステンシル)を体験する～

(内容) 地域の廣瀬染工場を見学したことをもとに、ステンシル染めを行う。ステンシルシートを使い、顔料を紅型用刷毛で染め遊びを楽しむ。晒の布を使って出来上がった作品を味わう。

(成果や子どもたちへの効果) この活動により、型染の基本について体験的に理解することができた。また、顔料の混色方法や多色を施す方法を体験的に身に付けることができた。

7月後半 「染物の今を考える」～シルクスクリーンのTシャツのデザインを考える～

(内容) 2学期に行う文化服装学院学生とのワークショップの準備のために、縦割り班のチームで、Tシャツロゴのデザインを考える。

(成果や子どもたちへの効果) 数人のチームで自由に描いたり話し合ったりする中で、友達とつくる楽しさも体感することができた。シルクスクリーンは描いたものがそのまま版型になることを知り、自由にデザインを考えることを楽しんだ。加えて、作品には、込められたテーマや思いや願いがあることを体験的に理解することができた。

2. 2学期

9月前半 「染物の今を考える」～Tシャツを藍で染める～

(内容) 文化服装学院学生とのワークショップの準備に T シャツを藍で下染めする。1学期体験した割り箸やビー玉の他にも様々な染め方があることを知り、意欲的に工夫して藍染を行う。

(成果や子どもたちへの効果) 体験を通して加熱なし染められる藍染の特性や、絞り染めの可能性について自分なりに理解することができた。また、屋外で開放的に染める活動の楽しさを実感できた。加えて、藍染の青色がジャパンプルーということに興味をもち、染物への意欲をさらに高めることができた。

9月後半 「染物の今を考える」～Tシャツをシルクスクリーンで彩る～

(内容) 文化服装学院教授と学生とのワークショップにより、1学期に自分たちが考えたデザインをもとに藍で染めたTシャツの上からシルクスクリーンをプリントする。色を選び、染め方を工夫して世界で一つだけのTシャツをつくる。

(成果や子どもたちへの効果) 描画がそのままデザインになる喜びと、スキージを使って一気にプリントする面白さを体験したことが、染物のイメージを一新するきっかけとなった。また、現在の服飾やテキスタイルについて講師より伝えられたことが、児童の活動意欲をさらに高めた。文化服装学院学生の服装や自由な雰囲気から、現在の染物やテキスタイルのイメージを広げることができた。

10月前半 「自分たちの染物を考える」～ブランドをつくる～

(内容) 自分たちのつくったTシャツのよさを広めるために、縦割りチームのブランドをつくる計画を立てる。その中で、自分たちの染物の特徴や伝えたい思いや願い(コンセプト)を話し合い、それに合ったブランドマークを考える。校内展覧会で展示して、広める計画を立てる。

(成果や子どもたちへの効果) 自分たちの作品やデザイン、また、落合の染物を広めるための思いや願い(コンセプト)を考えることができた。さらに、魅力的なブランドのトレードマークを協働的にデザインできたことで、自分たちの活動にさらに自信をもつことができた。

10月後半 「自分たちの染物を考える」～展覧会出品準備と校内の発信に向けて～

(内容) 展覧会に向けて、チームごとにTシャツの効果的な展示方法を考える。また、ブランドやコンセプトについても、さらに話し合うことで展示に生かす。

(成果や子どもたちへの効果) 展示することで、自分たちの作品のイメージをさらに確かにするとともに、コンセプトについてもグループで確認し、所属意識も高めることができた。全部で11のブランドとトレードマークができ、これからの作品作りの基礎となった。トレードマークをシール印刷したところ、これに児童が大変喜び、「シールをつくって、自分たちの思いや願いを、地域に広く紹介したい。」という意欲が出てきた。

11月 「自分たちの染物を発表する」～地域行事「染の小道」参加作品「百人染め」の絹の反物づくり～
(内容) 学校のマスコット「おちろくちゃん」をモチーフに、渋紙を使った型染めを体験する。地域講師「染の小道」実行委員会の方を講師にして、絹の反物作品を完成する。全校朝会でこれまでの取り組みを発表し、全校児童にも自分たちの取り組みを紹介する。

(成果や子供たちへの効果) デザインカッターを準備し、今度はグループ活動で渋紙を使ってステンシルに取り組むことで、型染めへの理解がさらに深まった。また、3年生にも体験活動を教えることができ、自信を高めた。

※校内研修会の実施

「主体的協働的な取り組み」の先進者である、香川大学附属高松小学校教諭の河田祥司氏を講師に招聘し、地域連携の在り方や主体的協働的に学習する児童の育成について校内研修会を行った。地域の商店街に活気を与えた実践を聞き、児童のもつ力のすばらしさを知ること、教員の意欲を高めることができ、授業改善の視点が高まった。

12月 「自分たちの染物をつくる」～これまでの学習を生かし作品をつくる～

(内容) 9月に学習した藍で、今度は一人一着半纏を染める。素材が厚めの布なので割りばしの板締めで行う。1着の作品が大きいのでチームで助け合って染め上げることも確認する。完成後、2学期に考えたブランドのトレードマークでシルクスクリーン版をつくり、染め上がった半纏の左右の胸の箇所に刷る。また、校章と学校の名前を半纏の前と後ろにシルクスクリーンに彩る。

(成果や子供たちへの効果) シルクスクリーンをもう一度挑戦したいという児童の希望に答え、再度取り組むこととなった。技術力が向上しており、自分たちだけでシルクスクリーンを刷ることができたことが、児童の自信につながった。3学期に取り組む個人作品でも、シルクスクリーンを希望する児童が多かった。

3. 3学期

1月 「自分の染物をつくる」～これまでの学習を生かして、お世話になった人に贈る作品を作る～

(内容) 「二分の成人式」を目標に、お世話になった人にプレゼントする作品を作る。巾着や手提げ素材を用意し、染料で染めた上からステンシルやシルクスクリーンの技法を生かして、顔料で彩る。メッセージ・カードを書き、乾燥後ラッピングして仕上げる。さらに、自分たちのデザインしたトレードマークを使った缶バッジをつくり、落合の染物を応援する意識を高める。

(成果や子供たちへの効果) 技能が高まってきたことで、児童は、プレゼントする作品をつくるだけでなく、自分たちの作品をもっと地域に発信したいという意欲をもつようになってきた。中には、新たなシルクスクリーンデザインにチャレンジする児童も出てきた。

※先進校研究発表会視察

主体的協働的な児童を育み実践を深めるために、共同研究者、校内の中核教員で先進校視察を実施した。2月2日・3日に香川大学附属高松小学校で研究発表大会、2月4日関西大学初等教育部の研究発表会があり、視察を行った。ともに参加した教員同士、児童が発揮する力のすばらしさに深い感銘を受けると同時に、新たな取り組みにチャレンジする意欲が高まった。帰校後、視察した学校の教育活動を他の教員に報告するほか、児童の思いや願いに沿った活動を推進するためには、教員間の理解と協働が不可欠であることも再確認した。

2月 「落合の染物を応援する」～「染の小道」に参加しこれまで取り組んできたことを発表する～

(内容) これまで学んだことを地域行事「染の小道」会場で発表する。また、自分たちが作った落合の染物の応援グッズのシールや缶バッジの紹介や販売体験を行う。(あわせて展示も行う。)

(成果や子供たちへの効果) 活動を通して児童は、自分たちの作品をもっと地域に発信したいという意欲を強くもつようになった。全校朝会では以前実施した時よりも、自信をもって全校児童に発表する姿が見られ、共同研究者共々、成果を実感することができた。

4. まとめ

一年間同じテーマでプロジェクト学習を行った。様々な人々の思いや願いを学ぶことにより、思いや願いをもつことの大切さを児童とともに学び合う一年となった。また、様々な広がる児童の思いや願いを実現する活動を推進するためには、教職員だけでなく、保護者や地域協力者を募り、協働体制で取り組む必要があることもあわせて分かった。

今後も、職員や地域協力者のよさを生かし、さらに魅力ある学校づくりにつなげていきたい。